| 番号 | 46 | 牛津川の横土井 | | |
|---|---|---|---|---|
| 所在地 | | 多久市東多久町納所　松瀬 | | |
| 災害別 | | 水　害 | | |
| 目的別 | | 遺　構 | 建立年 | 寛永年間 |
| 特記事項 | | （参考）松浦川　大野の横堤 | | |

横土井は上流からの洪水をせき止め下流の穀倉地帯を守るため、河川の方向とほぼ直角になるように造られた堤防である。牛津川の横土井は、寛永年間（１６２４～１６４４）にかけて成富兵庫茂安（１５６０～１６３４）により築かれたといわれ、現在はその一部が土木遺構として保存されている。

南部長恒（１７９１～１８５９）はその著書「疏導要書」の中で「松瀬村の内に水受の土井を築き納所村より下には水害此なき様にしける故其害は無之と雖とも此土井上の所小城多久の村は年々水滞して大に難渋すること也」（原文はカタカナ表記）と記している。下流の本藩領である佐留志郷などのための水防施設であったと言える。

横土井の前に、多久市教育委員会による説明版が建てられているので、その一部を紹介したい。（現在では退色して判読困難な状態になっている）

「横土井（通称「よこでい」）　横土井は江戸時代前期の寛永年間（１６２４～１６４４）に、佐賀藩の命で、成富兵庫茂安が近隣一帯の穀倉地帯を守るために築いた堤防です。これによって下流域の生活は守られましたが、反面、上流域はしばしば被害に見舞われる水害常襲地帯になりました。以来、横土井は破堤と修復を繰り返し、高さや幅等を大きく補

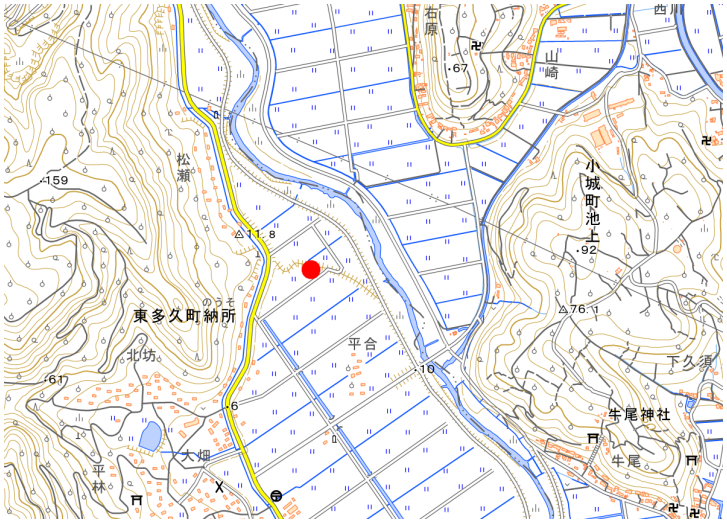
強して現代まで保全・活用されてきました。

平成７年度、牛津川流域の河川改修に伴い撤去されることが決まりました。そこで、近世の土木遺構として県下でも希少な価値と、地域住民の生産と生活を賭けた闘いの往時を偲び、ここに歴史的役割を終える横土井の一部を保存することにしました。」（平成 10 年 3 月　多久市教育委員会）

なお、この横土井の西側には、同じく成富兵庫茂安が開削したといわれる羽佐間水道が流れており、現在でも砥川から佐留志に至る水田を潤している。

また、同様の横土井は、松浦川右岸にも見られる。おそらく同じ目的で造られたものであろうが、こちらは横堤と表示されており、築造年代などの資料は見当たらなかったため、参考として掲載する。

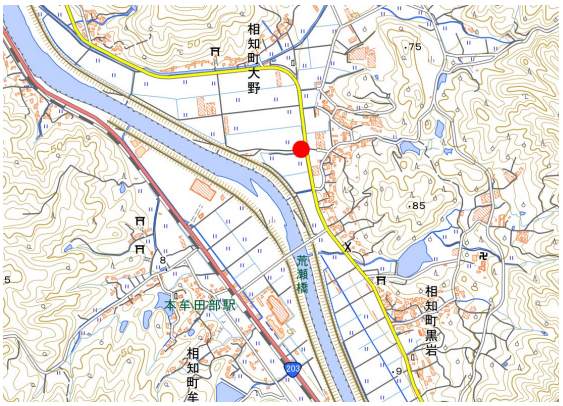
羽佐間水道




国土地理院電子国土 Web

牛津川（下流方向）

## （参考）松浦川の横堤　　唐津市相知町大野




国土地理院電子国土 Web